

# 常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【11月12月度の御金言】松のしも(霜)の後に木の王と見え、菊は草の後に仙草と見えて候。代のおさまれるには賢人見えぬ。代の乱れたるにこそ聖人。愚人は顕はれ候へ。

『兵衛志殿御書』(1095頁)

## 法華講信条

- 1, 謗法厳戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲載

## 新年明けましておめでとうございます

コロナ、コロナで明け暮れた昨年ですが、コロナウイルスも、したたかに強力なウイルスに変異して来ていますので、今年も同じ様な生活になって行くと思います。コロナ予防接種も3回4回5回と打ち続けて行かなければいけない状況が常識の時代になるかもしれません。むつかしいことは分かりませんが、私達一般人は、いらいらしたり、他人のせいにして、面倒くさい、邪魔くさいと、慣れっこになったり、気を緩めたりしないで、引き続きマスクと手洗いを御互いの生命を守る常識として、継続して日々の生活を営んで行かなければいけないと思います。世界のニュースを見ていると、マスク着用、イベント中止だけで反対のデモが行われ、暴行、乱闘が起きているのを見ると、本当に人類は、義務と権利と自由をはき違えて、御互いに思いやる心が無くなり、動物よりも劣る、地獄、餓鬼、畜生、修羅の世界にうごめく存在に向かっているなあって感じます。コロナよりも恐ろしい状況が、コロナによってあぶり出され、現在の世界の状況が有るなと思います。

しかし、よく考えると、日蓮大聖人の鎌倉時代は、幕府権力者をはじめとして、もつと人間の欲望が露骨にうごめく時代だったと思います。インドから一番離れ、仏教が説かれてから2000年も過ぎた、場所も時間も一番遠く離れたその混迷の暗闇の末法の時代の中だからこそ、真実の一切衆生平等成仏の法が現れ、必要である。真実の法を探究し、その法を身で読み、その法を一切衆生に伝える事を、出世の本懐と考え、どんな理不尽な法難も変毒為薬し耐え乗り越えて行きます。そうして顕わされた法を、私達は深い縁あって信仰しているのであります。

『混乱の中にこそ、道理に叶った真実の法を』『暗闇の中にこそ一条の光を』それが、日蓮大聖人が悟られ説かれた、一切衆生平等成仏の法であります。

信仰する以上は、基本として、月に一度でも三寶院へ参詣し、日蓮大聖人の法を学び、御本尊が何か、御題目が何か、御経が何かを学んで、信仰の大切さ、深さ、喜びを、自分自身の事として、知り、感じて下さい。

☆ どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。

「憶持不忘」とは、日蓮大聖人の法を信じ、常に忘れず、持もち貫くという意味であります。「どんなことがあっても」とは、生命や家族や生活の糧に及ぶような危険や脅しが実行されたとしても、という意味であります。

信心しているのに、こうなった、ああなった、幸せになるはずが、不幸になった、信心としておかしいじゃないか、家族が、そんな信心なら止めてしまえと言われ、家族の心がバラバラになった、という人がいます。

信心を純粹に貫こうと思えば、必ず色々な試練が起こります。信心以外の学問、商売、スポーツ、芸術等々の世界でも同じ事なのであります。正しく貫く事がむつかしくなると、ほとんどの人は、教えの解釈を自分の都合が良いように変質させたり、目的を現世利益にすり替え、幸せになれないのは、信心が足りない、御題目が足りない、信心が曲がっているからだ、誰も反論しようがない理屈で強弁します。信仰の本来の目的である成仏は、凡夫は見る事、見せる事が出来ない為に、説明出来ないから言わないようにします。創価学会のやり方がそうであります。

日蓮大聖人は法難の日々を、「法悦」と説きました。創価学会は、現世利益を「法悦」と言いました。

信心は、「どんなことがあっても」という覚悟がなければ貫く事は出来ません。覚悟が無ければ、「法悦」がまったく違うものになってしまうのであります。